

兵高教組

確定速報 9号

2014年2月5日 調査情報41号

兵庫県高等学校教職員組合調査部

TEL : 078-341-6745

FAX : 078-351-3185

URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com>

mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

13確定 第2回越年交渉

4500を超える署名を提出

県「行革」による賃金削減中止 介助員雇用確保を強く求める



高教組、高従組、兵庫教組は、2月4日第2回越年交渉を行いました。松田教育次長の回答では、前回の交渉と変わらず具体的な「行革」カット終了の目途は、示されませんでした。交渉団は、賃金削減の中止を求めるとともに、学校予算の削減による学校現場の憂慮すべき実態を明らかにして県教委を追及しました。さらに介助員の雇用を守るように強く迫りました。2月10日の最終交渉に向けて、さらなる署名の積み上げをお願いします。

教育次長の回答

給与の独自カットの回復については、「行財政構造改革期間中における本県の財政状況、国の中期財政計画の動向、職員の勤務状況などを踏まえ、段階的に縮小を図ることとし、その具体的内容は毎年度定める」としている。

財政フレームの人件費は、現状においても、毎年度の国予算や県予算、皆様方との協議結果も踏まえて、修正を行っており、今回も同様に、皆様方との協議結果も踏まえて見直したいと考えている。また、26年度の県の予算については、編成作業のまっただ中である。財政フレームについても、26年度の当初予算を踏まえ、最終案において修正する可能性もある。引き続き精査を行ったうえ、最終案を固めていきたい。

教育次長の再回答

行革カットは、平成30年度までのできるだけ早い時期に終了させたい。

学校予算で迷惑をかけ申し訳ないと思っている。財源確保に努めているが、要求水準に達しておらず申し訳ない。

交渉団から

1. 県「行革」カットについて

「段階的縮小」というなら、地域手当を2%還元しているのを、2015年4月以降も継続すると約束せよ。また賃金カット終了の時期を示すべきだ。県の予算が厳しいと言うが、使い方の問題だ。福祉や医療など弱者について削ることは間違っている。何のための「行革」なのか？高速道路よりも地方の過疎化対策にお金を使うべきである。井戸県知事は、「春闘で賃上げをやってもらいたい」という発言している。県の職員も賃上げすべきである。

2. 学校予算について

学校の図書館に本が購入できない。高校で芸術鑑賞がなくなっている現実がある。

工業高校では、実験実習費が足りなくて、生徒から徴収している状態である。県教委は、学校予算の確保に全力をあげるべきである。

介助員の雇用を守れ

姫路特別支援学校の介助員24名の雇用を必ず守ること。スクールバス民間委託によって、介助員を解雇することは許されない。教育の質の低下をさせないためにも、子どもたちにとっても県教委は介助員の雇用を守れように最大限努力せよ。

2月10日の最終交渉に向けて奮闘しましょう！